

情報連絡員報告・9月分

原油・原材料の価格上昇により、収益状況が悪化

< 東京都中央会 >

9月の情報連絡員報告によると、製造業、非製造業ともに収益状況DI（前年同月比）値が悪化した。「業界の声」からは『紙・ビニール袋等が値上げになり、利益が減少』、『材料等高騰の影響で収益が悪化』、『いつまでも続く原材料の高騰で収益が悪化』等、原油・原材料の価格上昇により収益状況が悪化している現状が報告された。また、6月に施行された改正建築基準法の影響に関する報告もよせられた。

製造業64人、非製造業86人、計150人の集計

各項目のDIの動き（前月比）（↗ 好転 → 不変 ↘ 悪化）

	売上高	DI	在庫数量	DI	販売価格	DI	取引条件	DI		
全体	↘	-26.0	↗	-4.8	↘	-2.0	→	-12.7		
製造業	↘	-37.5	↗	-1.6	↘	0.0	↘	-15.6		
非製造業	↗	-17.4	→	-8.2	↘	-3.5	↗	-10.5		
	収益状況	DI	資金繰り	DI	設備操業度	DI	雇用人員	DI	業界の景況	DI
全体	↘	-40.7	↘	-22.0	↘	-23.4	↗	-8.7	↘	-34.0
製造業	↘	-46.8	↘	-21.9	↘	-23.4	↗	-6.3	↗	-32.8
非製造業	↘	-36.0	↘	-22.1			↗	-10.5	↘	-34.9

業界の声 (平成19年9月分)

【製造業】

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	麺類製造業	原材料の値上り分を価格に転嫁できずにいたが、小麦粉の値上りで年末年始にかけて、麺価の改訂を実施する。
	漬物製造業	中国産原料の安全性が社会問題になっているが、原料原産地表示を行っている当業界では中国産原料のものは消費者から敬遠され、大変厳しい状況にある。
	小麦粉製造業	大手製粉業者が11月より小麦粉の価格を値上げする動きだが、中小企業にとって値上げに応じて価格上昇分を転嫁することはむずかしい。
繊維・同製品	織物業	原油価格の高騰によりネクタイ箱・紙・ビニール袋等が値上げになり、利益の減少要因となっている。9月は例年以上に暑く、売上が減少した。
	帆布製品製造業	9月も引き続き、売上が減少している。それにともない、集金状況も悪化し、資金繰りが大変苦しい状況になってきている。組合員の仕事が減少し、組合としてもリストラ策を打ち出さなければならない状態にある。
	織物製外衣・シャツ製造業	前月と不変。取引先・業界全体の景況が悪く、転廃業を検討する企業も多くなっている。
木材・木製品	建具製造業	売上高は思いのほか伸びず、後半期が不安。ここにきて、建設業関係で負債1億円未満の倒産が目につく。組合員が昨年より業況悪化と回答する数が増加していることが気がかり。
出版・印刷	印刷業	印刷発注先への価格転嫁を進めないと苦境がますます苦しくなるが、現実問題として転嫁に一步踏み出せるかどうか
化学・ゴム	プラスチック製品加工業	原油値上りでプラスチック原材料も連続的に値上りするが、製品価格は上がらず収益は改善されない。
	塗料製造業	全体としては一応好転の兆しがみえているが、売上高の変動が目立ち、好転は一時的なものとの見方が一般的である。特に建築・外装分野は変動が大きい。
窯業・土石製品	コンクリート製造業	改正建築基準法の施行以降、建築確認手続きの大幅停滞により、工事発注が遅れ、急激な出荷減を招いている。
	コンクリート製品製造業	需要期をむかえ、売上高は多少好転している。ただし、長期的変化を示すものとは言い難く、短期的傾向と見えそうで憂慮している。ゼネコンの倒産が続き、納入業者の被害が相次ぎ、連鎖倒産の懸念が高まっている。
鉄鋼・金属	非鉄金属製造業	大手企業が手がける大物製品は繁忙だが、中小企業が扱う小物は減少している。材料等高騰の影響のため、収益が悪化。
	ねじ類製造業	総体的に横ばいであるが 輸入品の増加 原油高にともなう物流コストや包装資材コストの上昇 材料価格の高値推移等、価格は是正への努力が引き続き必要である。
一般機器	写真機製造業	年末にかけて回復の兆しがでてきたが、原油及び大豆等の値上りで材料の値上げができず、悪化が見込まれる。
その他製造	紙製品製造業	原紙価格の値上げが我々二次製造業者のコストアップとなって久しい。秋以降に商品価格改定の動きが業界内で目立ってきた。
	ガス圧接業	稼働率が高く、労務不足は改善されず人員確保に苦しい状況が続いている。改正建築基準法の影響か、月間の工事量のバラツキが激しい。

業界の声（平成19年9月分）

【非製造業】

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	電線卸売業	工事中電線の荷動きに大きな変化はない。全体的に悲観的な材料がないので、10月以降に期待している。
	洋紙卸売業	秋の需要を控え、売上増の時期であるが伸び悩んでいる。また、メーカーの工場自体の問題もあり、製造が間に合わない。
	玩具卸売業	最需要期の年末商戦に向けて本格的に始動した。そのため取引もやや活発化し、大いに期待したいところである。
小売業	木材小売業	建築基準法の改正による影響で建売物件の仕事の遅れが目立つ。組合員の業況も全体的に7月より下降線をたどっている。
	豆腐小売業	いつまでも続く原材料の高騰で収益が悪化。また関連法制の強化で廃業者が続出している。残暑厳しく、気温が高くても豆腐の売上は上がりず、全国平均で売上単価15%減少との報道
	包装材料小売業	段ボールの大手メーカーの値上げ通告が9月から10月にかけて各組合員に通告されたが、販売価格への転嫁ができず、苦慮している状況が続いている。
	古書籍小売業	暑さの影響で店の売上が落ち、「本が売れない」という組合員のなげきの声も聞こえてきた。
	飲食店等	売上全体では前年比で若干の増加。業態別では物販がここ数ヶ月前年比増加が続く。一方、飲食・特飲は前年比微増としているが、長年にわたる飲食街の顧客減少は大きく、不安定な状態。
	野菜・果実小売業	天候不順のため、野菜の高値が続き、大手スーパーが販売価格を値上げしている。そのため、八百屋で購入する消費者が増加し、販売が上昇している。
	衣料小売業	高温が続き、秋物商品全般が売上不振で前年に比べかなり悪かった。
	電気機械器具小売業	9月になってからも高温のため、例年以上にエアコン販売高が増加した。商品別ではテレビが前年並み、冷蔵庫・洗濯機等は若干前年を下回ったものの、エアコンの増販で売上高は前年の微減となった。
建設業	内装仕上業	地方では仕事そのものが少なく、安値受注せざるを得ない状況で、後継者不足も深刻。東京は仕事はあるが、団塊世代の定年問題の関係で仕事ができる人が少なくなっており、下請に委託する状況
運送業	貨物自動車運送業	企業間のバラツキはあるが、全体としては売上高減少傾向。収益面では軽油の高値安定により苦しい。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	漬物製造業	原料原産地表示の対象品目には大きな不公平感がある。消費者保護の立場を重視するならば、全食品を対象とすべきでは
繊維・同製品	帆布製品製造業	原材料価格上昇への対策として諸経費の削減、在庫の調整、人件費の調整をしているがそれだけでは間に合わないので、物資安定供給策を打ち出してほしい。
鉄鋼・金属	建設用金属製品製造業	改正建築基準法が施行されたが、国交省のガイドラインが明確でないために7月の建築申請が前年同月比マイナス23%となっている。これは役所のミスであり、反省してもらいたい。
小売業	古書籍小売業	中小企業の景況悪化は、すでに調整段階を過ぎている。消費購買力を高める政策を望む。
	化粧品小売業	規制緩和の影響でコンビニまでが薬を販売している状況では専門店が皆つぶれてしまう。零細小売店は無くしてしまえということか。真剣に対策を検討してほしい。
	二輪自動車小売業	二輪車の販売に関するルールの強化が必要。ルールを守らないものには取締り強化が必要。
	豆腐小売業	大手豆腐メーカーのシェア争いで過剰生産、安売りが続いている。大手を指導し、適正な値上げを望む。
運輸業	貨物自動車運送業	燃料の高止まりに苦しむ業界に何らかの対策を望む。